

原発をやめる政府を早くつくりましょう

原発なくし自然エネルギーをと訴えて街を歩いたヒロシマ・アピール・ウォークが今日で 100 回目となりました。福島第一原発の事故などなかったかのようにしようとしている政府に対峙して、延べ 5 千人以上が参加しました。何としても原発はやめさせたいという熱意がこめられています。

まき散らされた放射能によって 6 年余り経った今でも 8 万人以上の人々が避難生活をしられるなど、くらしや健康を脅かされています。除染が不十分なまま避難指示を解除して賠償を打ち切ることを急いでいます。東京電力と国は事故の責任を取らず、被災者を切り捨てるものです。

一方、事故そのものも収束できず、地下水と燃料デブリを切り離せずに放射能汚染水が溜まり続けています。事故を小さく見せようとしていっそう収束を困難にし、「廃炉」の時期も必要経費も見通せません。事故原因すら究明出来ていません。

それにもかかわらず、まやかしの規制基準を設けて原発の再稼働を強行しています。原発が大地震には耐えられないことは、地震大国の国民は知っています。四国電力伊方原発は瀬戸内海をはさんでここ広島市から僅か 100km にあります。日本最大の断層、中央構造線の活断層間近にあり、その上、近い将来確実に起きる南海トラフ巨大地震の予想震源域でもあります。

原発がないと電力が足りないという政府の宣伝がウソであったことがはっきりしました。原発は安いという宣伝もウソでした。燃やした核燃料の後始末の方法さえ目途が立っていません。事故を起こした福島原発の後始末の費用は巨額でそのツケを国民に払わせようとしています。

また増殖炉もんじゅが廃炉になり政府の核燃料サイクルは破綻しました。それでも続けるという政府は理由を説明出来ません。すでに 48 トンもあるプルトニウム、さらにつくる理由は核兵器づくり以外にありません。

原発には未来がありません。東芝など原子炉メーカーも困難に直面しています。未来のエネルギーは自然エネルギーです。いのちと安全だけでなく、経済の発展のためにも、そして子どもたちに残す核のゴミを増やさないように一日も早く原発をやめさせましょう。

私たちはこれからも原発をなくし自然エネルギーをと訴えてヒロシマ・アピール・ウォークを続けます。

2017 年 5 月 20 日

ヒロシマ・アピール・ウォーク 100 回記念集会参加者一同